

46 果樹農業好循環形成総合対策事業

【5, 896 (5, 520) 百万円】

対策のポイント

果樹農業振興基本方針に即し、所得向上に向けた好循環を生み出すため、生産から消費に至るまでの関係者の「連携」による一気通貫した取組を支援します。

<背景／課題>

- ・我が国の果樹農業は、高齢化の進展や農地荒廃の加速化、資材価格の上昇等により、生産基盤が脆弱化しています。また、果実の需給構造を見ると、国内需要のうち6割、果実加工品だけを見ると9割を輸入に頼っています。
- ・こうした状況の中、新たな果樹農業振興基本方針においては、高品質果実の生産・販売が更なる追加投資や品質向上につながるという所得向上に向けた「好循環」を生み出すため、各分野の「連携」を図ることが重要であると位置付けています。

政策目標

果樹産地面積のうち優良果実の供給面積割合の増加
(5% (平成25年度) → 17% (平成37年度))

<主な内容>

1. 農地中間管理機構の活用等による優良品目・品種への転換の加速化
優良品目・品種への転換を加速するため、引き続き、産地の担い手による改植等を支援します。さらに、産地協議会と農地中間管理機構の連携を強化し、農地中間管理機構を活用した改植や小規模園地整備を推進します。
また、改植費用の上昇を踏まえ、改植単価及び未収益期間支援の単価を以下のとおり改定します。
(改植)
 - ・10aあたり22万円→23万円 (みかん等のかんきつ類)
 - ・10aあたり16万円→17万円 (りんご等の主要落葉果樹等)
 - ・10aあたり32万円→33万円 (りんごわい化栽培等)(未収益期間)
 - ・10aあたり20万円→22万円 (5.5万円×4年分)このほか、新品種でなくとも需要の見込まれる品目・品種の導入や大規模基盤整備を行った園地における植栽を新植支援の対象にします。
2. 果実の需給安定や果樹農業の好循環のための優先課題の解決
計画生産・出荷、緊急的な需給調整対策、自然被害果実の流通対策を推進するとともに、荒廃園地の発生抑制等に向けた園地パトロール、ICT等新技術の普及のための産地と異業種とのマッチング、全国ブランドの育成等の取組を支援します。
3. 流通・消費構造の変化に対応した加工流通対策の強化
流通・消費構造の変化に対応するため、カットフルーツ等の需要拡大につながる商品開発等を推進するほか、新たに、加工用果実の安定生産に資する作柄安定技術の導入等を支援します。
また、海外への海上輸送体制を確立するため、リーファーコンテナ（冷蔵冷凍装置を備え、定温流通を可能とするコンテナ）の効率的な活用や長時間輸送に適した鮮度保持技術・輸送用資材の開発・実証を支援します。

〔補助率：定額、定額（1/2相当）、6/10、1/2、1/3〕
事業実施主体：(公財) 中央果実協会、民間団体〕

[お問い合わせ先：生産局園芸作物課 (03-3502-5957)]

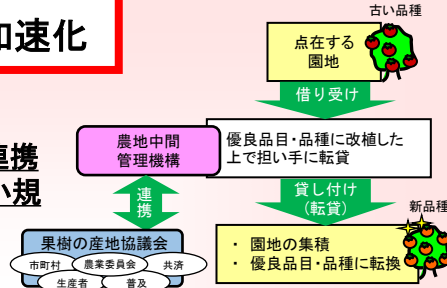
果樹農業好循環形成総合対策事業（平成28年度予算概算要求額 5,896（5,520）百万円）

果樹農業振興基本方針の方向性に即し、果樹農業の所得向上に向けた好循環を生み出すため、生産、流通、加工、販売、消費等の関係者の「連携」による一気通貫した取組を支援。

優良品目・品種への転換の加速化

- 産地の担い手による改植等を支援。

- 産地協議会と農地中間管理機構の連携を強化し、機構を活用した改植や小規模園地整備を推進。【新規】



- 改植費用や栽培管理費の上昇を踏まえ支援単価を見直し。【拡充】

【改植】22万円 → 23万円/10a (みかん等のかんきつ類)
16万円 → 17万円/10a (りんご等の主要落葉果樹等)
32万円 → 33万円/10a (りんごわい化栽培等)
【未収益】20万円 → 22万円/10a (5.5万円×4年分)

- 品質確保が見込めない極早生みかん園地の廃園を推進。
- 需要の見込まれる品目・品種の導入や大規模基盤整備を行った園地における植栽を新植支援の対象に拡大。【拡充】

果実の需給安定や果樹農業の好循環のための優先課題の解決

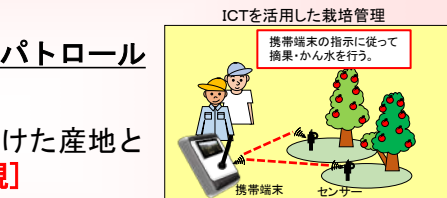
- 計画生産・出荷、緊急的な需給調整対策、自然被害果実の流通対策を推進。

- 荒廃園地の発生抑制等に向けた園地パトロール等の産地の取組を支援。【新規】

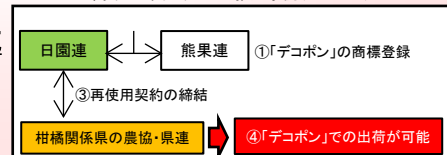
- ICT等異分野の新技術の普及に向けた産地と異業種とのマッチングを支援。【新規】

- 果実の需要喚起に資するブランド力の向上に向けた、全国ブランド育成や機能性表示の活用等を支援。

【新規】



果実の全国ブランドの推進事例(デコボン)



加工流通対策の強化

- 加工用果実の安定生産に資する作柄安定技術の導入等の取組を支援。【新規】

省力化を図りつつ、一定の品質を確保した原料果実を生産し、果汁工場に安定供給

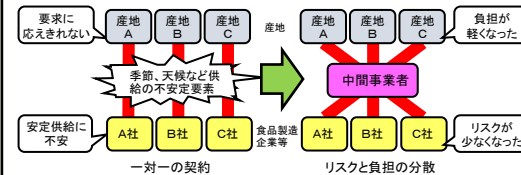


機械収穫前提の整園



揺り落とし機械等の導入

- 中間事業者によるサプライチェーンの構築や需要拡大を推進。



- カットフルーツ等を含め新たな需要拡大につながる高品質化機械等の導入実証を支援。



酵素剥皮技術を利用したカットフルーツ

- 新需要に対応しつつ更なる需要拡大に資する商品開発や省力化栽培実証を支援。



不揃いなりんご



消費者ニーズの高いカットフルーツ向けに提供可能

- 海外への果実の海上輸送体制の確立に向けたリーファーコンテナの効率的な活用や、長時間輸送に適した鮮度保持技術・輸送用資材の開発・実証を支援。【新規】



冷凍冷蔵が可能なリーファーコンテナによる輸送



MA包装資材による長期鮮度保持技術(不知火)